

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402150		
法人名	有限会社 高原		
事業所名	グループホーム あすなる		
所在地	〒859-1111 長崎県雲仙市吾妻町馬場名277番地 (電話) 0957-38-6728		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年10月1日	評価確定日	平成20年10月15日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18人	常勤	16人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9000円・実費
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950円

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	16名	男性	1名	女性	15名
要介護1	7名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 83.9歳	最低	73歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛野記念病院・医療法人安藤病院・朝永歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム正面の玄関を入ると広いエントランスホールにピアノ、車椅子、二人用のテーブルと椅子が整然と配置されており、右側にはさくら棟、左側にはクローバー棟の引き戸玄関がある。上質な大人の雰囲気も漂い、穏やかな時の流れは、パンフレットから受けるイメージそのもので、周りの田園風景等が後押ししている。入居者と職員間では共同生活者の会話が飛び交い、入居者の出来ることや経験がホーム生活の中で存分に発揮されている。又、居室作りや衣替えなどは家族と入居者に託された紡ぎの時間でもあり、絆を大事にした支援をされている。今後は、ピアノの音と入居者の歌声・笑い声が近くの小川や田んぼ等を渡る風に乗って運ばれるように、地域への「あすなる」浸透が望まれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートの作成をされており、正直な評価が記載されている。また、ホームの力量の点検・環境なども考慮した中での取り組み段階であることも記載されており、訪問当日も前回改善項目について、内容の理解に繋がる建設的且つ前向きな態度で望まれ、サービス向上の意欲が感じられた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価の取り組みをされ、「評価項目の内容理解が容易でない」事などを実感されているが、施設長を始め課長、管理者等は真摯な態度で訪問調査に臨まれ、メモを取られたり、繰り返しの言葉かけで再確認に繋げられるなど、外部評価をホームの向上に1つでも2つでも活かしたい姿勢で望まれ、調査との連携した取り組みの姿勢が窺えた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、概ね2ヶ月に1回の開催で、年度毎に委員の選任がなされ、委員6人以内をもって組織されている。委員からは遠慮のない意見や質問が活発に出され、ホーム運営の向上に反映されている。外出時の食事について質問されたり、諫早の新名所とも言うべき「堤防道路」への誘い、権利擁護に関する質問など頂戴され、質問の一つ一つがホーム職員にとってプラスとなり、成長に繋がられている。堤防道路への外出は、入居者にとっても話題性や関心事であり「初めて来た、階段ば上ってみようかね」と、意欲を掻き立てる状況提供に繋がっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	いくつかの取り組み対応の姿勢は示されているが、家族等からはお伝えいただけないのが現状である。しかし、入居者のことで家族宅を訪問されたとき、話の延長に気づきや意見などを得ることができた。又、夜ということもあり、家族が揃っていたので、普段面会に来られないご家族にもお会いすることができ、コミュニケーションがとれたことで、ご家族の意向の把握とサービス提供への反映に繋がったことを嬉しそうに話された。入居者・家族の環境等も考慮した上で、今後も家族訪問を取り入れ、信頼関係と安心・安定等に繋がる取り組みの意向を示された。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所と地域との関わりの頻度の少なさを自ら実感されている。提案は持たれているものの、実行に至るまでの手立てが見つからずに探されているのが現状である。尚、訪問当日の話し合いの場で出たアイデアを基に、調査終了時には、早速、雑巾作りに取り掛かっている。まずは、地域の人に拡く「あすなる」を知ってもらうことを目標に、できることからアクションを起こされることが期待される。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念「穏やかに 生き生きと 自分らしく」を、地域密着型サービスのスタートに合わせて何度か見直しの試みをされたが、従来の理念で納まっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有に繋がる取り組みの一環として、理念の掲示や唱和を取り入れられているが、漠然としていて具現化への取り組みに繋がる共通性に欠けることは否めない。	○	理念の具現化と職員の意識下の共通性に繋がる取り組みとしてスローガン等を掲げ、実践されることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所と地域との関わりの頻度の少なさを自ら実感されている。提案は持たれているものの、実行に至るまでの手立てが見つからず探されているのが現状である。尚、訪問当日の話し合いで出たアイデアを基に、調査終了時には、早速、雑巾作りに取り掛かっている。	○	まずは、地域の人に拡く「あすなる」を知ってもらうことを目標に、最寄の公共施設などへ入居者手作りの「雑巾」「塵いれ」などの進呈等で地域との関係作りの足がかりを作られるなど、できることからアクションを起こされることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目に戸惑いを感じながらも、全職員で自己評価の取り組みをされている。又、業務に追われて忘れかけていた入居者への対応のあり方についての振り返りの機会にもなっている。施設長を始め、課長、管理者等は真摯な態度で訪問調査に臨まれ、メモを取られたり繰り返しの言葉かけで再確認に繋げる等、外部評価をホームの向上に活かす姿勢が窺える。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、概ね2ヶ月に1回開催されており、委員6名以内をもって組織され、任期一年で年度毎に選任されている。7月に1回目が開催され、平成20年度の運営推進会議設置要綱が配布されている。毎回の共通議題は「日々の活動内容 入居者の状態である。委員からは遠慮のない意見や質問が出されサービスの向上に反映されている。		

グループホーム あすなる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市より地域審議会の初回メンバー登録の呼びかけがあり、「地域の細かい部分の声を市政に反映していきたい」趣旨の要望も伝えられたが、その後連絡が途絶えており、現在待機中である。又、ホームとして「入居者の作品展示場所の提供」を要望したが、「単一事業所ではなく吾妻町の事業所が協働したもへの対応」で回答があり、ホーム側で検討中である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の現金払い方式は、家族への報告の機会作りにもなっており、家族との継続した関係作りの支援にも反映されている。又、連絡を拒否される家族に対しては、家族から年に1回、保険証の新交付分が送付されるので、旧保険証と一緒に入居者の様子等を一筆したためたものを送付され家族への報告に繋がられている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情処理の体制として、常設窓口と体制手順が具体的内容等を挙げて明示されており、併せて公的機関の窓口も連記されている。意見箱の設置や通信に文言記載などで意見・苦情への取り組み姿勢は示されているが、伝えてもらえないのが現状であるが、入居者のことで家族宅を訪問された時、気づき・意見を得られている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員異動も殆どなく、固定化された職員環境のケアに配慮されている。入居者の特徴、癖など入居者を知る手がかりとなる共有情報に繋がるフェースシートの記録のあり方など検討され、入居者に携わる人と入居者の距離を縮めることでダメージ防止・環境の変化を最小限にするよう写真添付のある個別記録ファイルの充実の必要性も実感されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事故報告事例を基に、ミーティングを通して職員間で検討・研鑽し、ホーム業務に即した内部研修に繋がられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲仙市グループホーム連絡協議会ではセクションごとの交流がなされており、今のところ、施設長クラスの会議運営に積極的に参加されている。尚、この項目は、前回の取り組みを期待したい項目であり、職員に関しては取り組み検討中である。		

グループホーム あすなる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>地域密着型サービスがスタートするまでは、居宅支援事業所を通して長崎市まで出かけられ、入居者を受け入れられている。そのため、環境等の変化に伴う入居者への配慮として時間をかけた関係作りに留意されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>栗の調理方法について話していると、入居者の一人が「渋皮を付けたまま煮ると煮崩れせずに美味しくいただける」事を教えてくださり重宝したことを伝えていただいた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>音楽療法の中にも入居者の唄いたい歌の希望を聞かれたり、歌に関連した背景と入居者との接点など思い出に繋がることを話していただく場面を設けられ、意思の表出を促されている。又、表情観察や言葉かけの反応で本人との意思の疎通にも繋がられている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス提供開始時の入居者担当職員によるセンター方式シートへの聞き取り記入などを基に、ミーティングで提案された内容の目標期間を2～3ヶ月を目途に設定し、初回の介護計画を作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のミーティング記録や評価表、モニタリング総括表等を基に、設定期間(6ヶ月～12ヶ月)ごとの見直しや変化時の見直しをされている。現在、新しく支援経過記録関連シートの導入をされて試みられるなど、利用者の現状に即した新しい介護計画を模索されている最中でもある。</p>		

グループホーム あすなる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の米寿のお祝いに際して、神社へのお参りに家族も一緒に連れて行かれ、お礼を受けている。その方の居室にはお礼が大事に飾られており、喜ぶ様子を窺い知ることができる。又、家族の要望があれば宿泊の提供も可能であり、そのことも伝えられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、これまでの継続した医療受診の支援を心がけられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関との連携体制はできているが、入居の時点で、重度化や終末期の対応は「まずは病院」が本人・家族・事業所の共通した意見である。その後の対応は、入居者の状態やその時の事情で職員会議の中で、本人・家族の安心・安定に繋がる支援へと展開していくことで家族等の了解を頂かれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者で「自分はこの職員」と思われている人に対しては、否定せずに、大事な注意点は告げられるが混乱に繋がらない程度で容認し、見守り支援をされており、入居者の言葉を先ずは聞き入れる受容の姿勢を大事にされている。記録物に関しては、事務所の特定の場所に保管・管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問した日は、丁度、音楽療法の日で、エントランスホールには殆どの入居者が集わっていたが、気分が優れない一人の入居者は、畳の間で横になられていた。昼食前の約1時間、ピアノに合わせた歌や簡単な楽器でリズム演奏、歌にあわせて踊り等、皆の声や様子が壁1枚隔てた畳の間にも伝わる環境で、孤立感のない提供で本人の希望もかなえられている。		

グループホーム あすなる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食生活の一連の流れの中に、入居者の経験やできることを取り入れられており、利用者が育てた野菜の利用や下準備していただいたものが食卓を彩り、入居者と職員が共通の話題を持った団欒・作業の時間でもある。訪問した日も、入居者同士で食事を交えた会話や職員との世間話、入居者から調査員への気遣いの言葉かけなど頂き、楽しい食事風景であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決められているが、入居者の希望などがあれば柔軟な支援で対応されている。又、仲の良い入居者が一緒に入られることもあり、楽しい入浴タイムを提供されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの経験や趣味、特技をホーム生活の活動に取り入れた支援をされており、洗米や日記書き、雑巾作り、洗濯機を使った洗濯や洗濯物干し、食後の後片付け、季節野菜の栽培・収穫など、入居者の自信や満足に反映した取り組みである。訪問当日も、そのことに触れた話題になると本人の顔に笑顔と自信がみなぎり、とても良い顔をされていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状態や能力に応じて買い物やホーム周りの菜園作業、夕方の散歩など支援されている。散歩の途中で近所の神様に手を合わせる入居者の様子は地域の人からも馴染まれており、温かく見守られている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠はされておらず、外出の傾向を把握された時は、職員も一緒に出かけられている。リビング又は厨房に、職員が一人は常駐しており、その場を離れるときは職員間の声かけで、入居者の把握は連携されるように努められている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年に2回、昼夜を想定した消火・避難訓練の取り組みをされている。今年は、他県の事例を受けて自主訓練もされている。反面、自然災害に対するライフラインの確保・復興を前提とした手順や協力体制に対する認識が希薄なことも自負されている。必要性を感知された施設長から、施設長会議の議題として提案したい意向が伝えられる。	○	入居者に関する重要書類の持ち出し品の整備なども含めて、復興とライフラインの確保に繋がるマニュアル作成や協力体制作りが事業所単位から始められる事が望まれる。そこから発展してネットワーク作りがされると更に良いのではないが。

グループホーム あすなる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者と職員が同じテーブルを囲み、食事を通して摂食や嚥下機能の把握に繋がる観察や会話をさりげなくされており、関連して口腔機能の把握にまで至っているが、週間献立表の栄養バランスに偏りが見受けられる。献立表は、ユニット間で1ヶ月交代に作成されている。	○	市の保健師や管理栄養士など専門的立場の人に献立表のチェックや指導を仰がれ、栄養バランスにも配慮した食事提供で健康管理が食事面からも提供できる取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや洗面台は各居室に設置されており、共同用としてリビングから風呂場への動線にも設けられ、トイレには消臭剤で対応されている。畳の間からウッドデッキへは掃き出しの透明ガラスの引き戸で仕切られており、明り取りの天窓は季節に応じて遮光の工夫をされるなど、開放感と快適なリビングの提供に留意されている。又、殆どの入居者が日中過ごされるリビングでは生活音や五感への配慮もなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に収納場所を設けられていないこともあり、整理ダンスや衣装ケースなどに中身の表示をされ、本人が使いやすいように配置・室内装飾されている。家族と一緒に季節に応じた模様替えなどされており、入居者一人ひとりの生活史や家族との絆が感じられる。趣味や特技などに興じる場所、日記をしたためる場所等として本人のプライベートを大切にされた支援にも配慮されている。		